

令和5年7月 区長記者会見【テキスト版】

高際区長

皆さまこんにちは。豊島区長の高際みゆきでございます。お暑い中多くの皆さまにお集まりをいただきましてありがとうございます。先月、第2回区議会の定例会で上程をいたしました内容について、ご説明をさせていただきました。本区では、これまで以上に区民の皆さまにしっかりと区政の状況をお伝えするとともに、区民の皆さまからいろいろなお声をいただきたいという思いから、今年度新体制になりまして、夏休みの8月はちょっとお休みさせていただきますが、基本的に毎月月末目処に会見を開かせていただくこととしたところでございます。その都度、区が何を考えているのか、何に困っているのか、何をしたいと思っているのか、どんなお声を皆さまからいただきたいと思っているのか。そういったことについてご報告したいと思っておりますので、是非メディアの皆さまには、情報発信にご協力をいただければありがたいと思っております。

具体的なご説明に入ります前に、新しい副区長をご紹介申し上げます。7月10日の第2回区議会定例会において、区議会の同意をいただきまして、翌日の7月11日から就任をしております、天貝副区長でございます。一言挨拶を申し上げます。

天貝副区長

おはようございます。7月11日から4年の任期で新しい副区長に任命されました、天貝勝己と申します。よろしくお願いいたします。以上でございます。

高際区長

6月1日に上野副区長が就任をしております。所管としましては、基本的に街づくり等々ハードの部分は上野副区長。それから福祉、子育て支援等々ソフトの部分は天貝副区長。

そして今日も来ておりますけど、教育については引き続き金子教育長。この体制で進めて参りますので、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは具体的にいくつかご説明をさせていただきます。おそらく皆さまヨドバシカメラさんの関係のご質問をしたい気持ち満々かと思えますけれども、今日の会見は、私の定例会見でございます、区の事業をお伝えするのがメインでございますので、ご質問もぜひ西武池袋本店以外のところでたくさんご質問いただくと大変嬉しいなと思っております。

それでは、今日いくつかテーマを出しておりますので、ご説明をさせていただきます。まず一つ目ですけれども、「豊島区民による事業提案制度」というのを始めます。前回の記者会見で所信表明の内容についてはご説明を申し上げまして、もっと区民に近い存在になりたいと、そのために区役所自ら改革をしていくというようなことを申し上げました。

その一環として、まずは6月16日に、改革の第1弾として子どもレターというのを始めまして、前回「こんなかわいいやつですよ」ということでお見せをしました。その後の状況がですね、私自身も非常にびっくりしていますが、去年は子どもたちから4通お声をいただいて、それも大事にしておりましたけれども、子どもレターを開始いたしましたところ、本日現在で196通いただきました。

4歳のちっちゃい子から小学生・中学生とたくさん頂戴して、メディアの皆さまにもご評価をいただいて感謝しております。

そして、その区民に近い存在になるための区役所を自分で変えていくという第2弾といたしまして、今回お話を申し上げます、区民による事業提案制度というのを始めようと思っております。対象は、令和5年4月1日時点で区内にお住まいの方、また、区内へお勤めでいらしている方、在学されている方、それから区内に拠点を有する民間企業やNPOなど

法人の皆さまからもご提案をお待ちします。提案の分野はですね、環境とか子育てとか限定をいたしませんで、広くお声をいただけるようにしたいと思っております。出産や子育ての支援もありますし、教育のこと、それから子ども若者への支援、女性の活躍もそうですし、高齢者の皆さま、障害者、外国人など皆さまへのご支援、また産業振興や文化、まちづくり、環境、防災対策、デジタル化など、本当に区政を取り巻く課題はもうたくさんございますので、広い観点から幅広く受け付けたいと思っております。

ぜひ区民の皆さまが、私達も一生懸命やっているつもりではありますけれども、もっとこういうことがあると住みやすいんだけどな、引っ越してきたいんだけどな、とお考えのことを、どしどし区に投げかけていただければと思っております。ご提案は1件当たりの上限額を1000万。身近なところで、このくらいだと20万ぐらいかなとかいうものももちろんOKでございます。上限は1000万ということで、規模の大小に関わらず、自由なご意見をいただければと思います。

次のページに流れをお示しいたしました。本来はもっと時間を取って、ご提案をいただければよろしいのですが、私が就任してからのスタートになりましたので、今回はちょっとご提案の期間がタイトで申し訳ないのですが、このような流れで考えております。まず、早々に月が変わりましたら、詳細を発表いたします。8月から9月にかけて、皆さまからのご提案をお待ちしております。その後、私どもの方で内容の確認ですとか、審査をさせていただいて、その後10月を目処に、区民の皆さまに「こうしたご提案をいただいています」ということをお示しいたしまして、インターネットあるいは区民ひろばなどに張り出して、「案件は1番が良い、2番が良い」というのをご投票いただけるような、デジタルとアナログの両方で投票をしていただきたいと思っております。そこでは、「この提案は基本的にはいいけど、ちょっとここをこうした方がいいとか、そうしたプラスのご提案もコメントとしていただきたいと思います。そちらをいただきまして、区で中身を検討いたしまして、たくさんいただきたいんですけども、全部を一気に載せるとするのは難しいかもしれませんが、区民の皆さまから「これをやってほしい」という

何件かを検討いたしまして、来年度の予算案に盛り込んでいきたいと思っております。その後、その内容も含めまして区議会でご審議いただきまして、合意とご承認をいただきましたらば、早速来年度から、区民の皆さまの声に基づく新しい事業を実施してまいりたいと思っております。

効果としては下に四つ記載しておりますけれども、まずはやはり私も職員にしっかり区政の課題を考え抜こうということによって、職員も一生懸命これまで以上に考えますけれども、やっぱり役人ですので、発想がちょっと狭いところがあるかもしれません。区民の皆さまの観点から、課題の掘り起こしのご協力をお願いしたいということが一つ。それから、いろんな課題を区民の皆さまに出していただいて、それをまた区民の皆さまが選んでいただくということで、区政に関わっていただく、ご参画いただくチャンネルが一つ増えるのではないかと、ということも期待をしているところでございます。それによりまして、私達もまちに出て、区民に近い区政になりたい、区民に近い区長になろうということによって頑張っておりますけれども、ご自身たちに自ら参画いただくことで、より身近な区政になれるのではないかと。また、区民の皆さまとの新しいつながりも生まれるのではないかと。私は区政運営の基本に三つのつながりというのを挙げていますので、本当の意味で区民の皆さまとより深くつながれるきっかけにできればいいなと思っております、始めることといたしました。びっくりするようなご提案をいただけると嬉しいなと思っておりますので、ぜひ皆さまも広く周知にご協力をいただければと思っております。

2点目は災害の関係でございます。

災害時に、要介護者・高齢者の方など、どのようにお支えするのかというのは本当に大きな課題でございます。7月11日に、要介護者の安否の確認などについての協定を、少し長いですが、豊島区介護事業者災害対策連絡協議会というところと締結いたしました。こちらの協議会は、災害が発生したときに介護サービス利用者等の安否確認と、それからサービスの提供について、連絡協議会の会員とご利用いただいている方との連携を図

って進めていこうということで、区内の事業所の有志が中心となりまして4月にこの協議会が設置をされております。区内に介護の事業者は300ございいますが、このうちの187の事業所にご参加をいただいております。こちらの連携した協議会と、このたび豊島区が協定を締結いたしました。今までは、区内35ヶ所にあります救援センターを中心に、安否の確認をするということで進めてきたところでございます。救援センターを拠点としまして、地域の皆さま、町会の皆さまや民生・児童委員、その他皆さまが主体となってこの情報を収集したり、安否を確認していただいたりと、というようなことを中心に考えていました。

ですが、考えてみますと高齢者の皆さまの多くは、私の父もそうですけれども、週に3回も4回もデイサービスを利用したり、また施設に入所されている方もいたり、あるいは訪問介護ということでヘルパーさんに、ご自宅に来てサポートしていただいている、そうしたケースが多いですので、まずその方が無事か、こっちにいるってことの確認ってというのは、事業者さんにまずもってすぐに確認いただくことが有効ではないかということで考えまして、救援センター方式に加えまして、事業者の方との連携した方式、こちらの実現に向けて協定を結ばせていただいたところでございます。

具体的な流れは次にございまして、協定書はお手元にお配りをいたしましたので、後ほどご覧ください。震度6弱以上の地震が発生したときに、区から改めての要請がなくても、介護事業者の方自ら、ご自身の事業所のBCPに基づきまして、利用いただいている皆さまの安否の確認を実施いただきます。そして事業者の方には、「ここにいます」「この方はおうちで無事です」といった情報を最寄りの区内8ヶ所にある高齢者総合相談センターにご報告をいただく。もしかして、通信が途絶えているときは、徒歩で来ていただいてというアナログなところもあろうかと思えますけれども、区内8ヶ所、そこを拠点に、そこに近い事業者の皆さまが、情報をご提供いただく。それを私どもの方でシステムに入力をしまして、その情報を災害対策本部でも共有するという情報の一元化を図ってまいりたいと思っております。今の高齢者総合相談センターと、災对本部の情報がリアルタイム

で結びつくという状況になっていないので、今年度を目途にシステムの改修も図ってまいります。

こうした事業者との連携の中で、介護のサービスをご利用されている方のまずは安否確認を速やかにできるようにしたいと思っております。今後はですね、そうした安否確認の訓練をしたいと思っておりますし、防災対策に関する勉強会も一緒にやっていく。そうした中で、より多くの事業者の皆さまに、こちらの協議会に入っていただけるように、区も連携して取り組みを進めたいと思っております。また、これは地震を想定してはいますけれども、今後は風水害が発生したときの安否確認をどうするか。また、避難所に移っていただくときの移送をどうするかなど、いろいろ課題が具体的に出てくると思いますので、そこも協議会等と連携しながら、検討して参りたいと思っております。

次に、「国連を支える世界子ども未来会議inToshima」についてご紹介をいたします。この事業はですね、豊島区をより魅力のあるまちにしようということで、SDGsの切り口から子どもたちの声を聞いて発信していこうという事業です。「国連を支える」という、大変大仰な名前がついているんですけども、今回の実施に当たりましては区が連携しております、一般社団法人ピースコミュニケーション財団を通じまして、ニューヨークの国連本部にこの事業の実施についてご承認をいただきました。そのときについていた、英語の事業名を訳すとちょっとこのような形になり、来年やる場合はもう少しちょっとわかりやすい名前にしたいと思いますけれども、こちらをやらせていただきます。豊島区は2020年にSDGs未来都市の認定を受けまして、その翌年度から全ての小・中学校で、SDGs達成の担い手育成事業というものをしております。地域の特色を生かした持続可能なまちづくりのために何ができるのかな、それを子どもたち自身がSDGsの視点で考えて、私達を含め大人に提言をしてもらうという事業でございます。今年も、このSDGsの取り組みについて在住・在学の小学校4年生から6年生の子どもたちに参加してもらいまして、学校を超

えて、また学年も超えて意見を交換してもらって、「未来の豊島区こうしてほしい」「こうなってほしい」というのをご提言いただきたいというふうに思っています。

予定スケジュールですけれども、7月10日から9月25日まで、今アイデアを募集しております。いろんなアイデアが出るように、今年からは小学校で出前の授業をしております。考える際のヒントになればということで、区内企業の皆さまに講師になって、小学校に行っていただきまして、アイデアのもとになると思われるお話をいろいろしていただいております。今も4校で500人以上の子どもたちに授業を実施しております、9月にも予定をしております。そうした出前授業の話などを参考にしながら、夏休みに引き続きいろいろ子どもたちには考えてもらった上で、11月25日に一斉に集まってもらいワークショップを行います。その後、区議会の本会議議場をお借りしまして、グループごとに「住み続けたくる未来の豊島区」というのをテーマに、提言をもらうことになっております。子ども・若者・女性の声をこれまで以上に区政につなげていきたいというのが私の方針でもありますのでこの事業も本当に期待をしているところでございます。

次がちょっと変わりました、ヤングケアラーのお話を申し上げたいと思います。4月1日に本区におきまして、ヤングケアラー支援に関するコーディネーターを2人配置いたしました。昨年ですね、区立の小学校の4年生から中学3年生まで、そして高校生年齢ということで18歳までの子どもたちを対象に実態把握の調査をしております。調査結果についてはQRコードをつけておりますので後で見ただければと思います。調査結果については、「自分がヤングケアラーに当てはまる」とご回答があったのは、小学生が22.2%で45人、中学生が1.5%で13人、高校生年齢の子どもが2.3%で13人ということで合計71名おられました。おそらく多くの子どもたちは自分がヤングケアラーということは思っていないケースが多いと思うので、潜在的にはもっともっているのではないかと思っています。家庭内のことですし、小さいときから弟妹の面倒を見て中学生になった子がいるとすると、自分がヤングケアラーと思わず、当たり前のことだということで育ってきているということ

もありますので、やはり家庭の問題ではあるので見えづらい分、どういう形で早めに気づいてあげられるか、その状況をいかに適切な支援に結びつけてあげられるかというのが私達の大きな課題になっております。またその実態調査のときに、子どもたちからの声として、何をしてほしいかということについては、「直接会って相談したい」「そうした場が欲しい」ということが一番多かった状況でした。そうしたこともありまして、子ども自身、また子どもに関わる関係機関の皆さまから、お話を聞いて適切に支援をコーディネートできるヤングケアラー支援コーディネーターというのを、東部子ども家庭支援センターに4月1日から配置をしております。社会福祉士や公認心理師、介護支援専門員、保育士、教員などの資格を持つ方が担っております。また、いかに気づいてあげられるかという点では、関係機関、また地域の皆さまとの連携が不可欠になりますので、今後は、何かあったらすぐにご連絡いただけるような体制づくりにも努めてまいりたいと思っております。イラストにもありますが、子ども家庭支援センターにずっと座っているだけでは子どもたちからの声は届きませんので、こちらからお家にいったり、あるいは子どもたちがたくさん来てくれている中高生センタージャンプにコーディネーターの方が出かけていって、子どもたちとも距離やハードルを下げて、こんなことでも相談していいのかなというようなことでもお声掛けいただけるような、そうした取組みもしております。

次にイラストがありますけれども、いろんな関係機関との連携で、そうした状況に気づいてあげられるように、地域の皆さまの理解も促進できるような、そうした発信もしてまいりたいと思っております。庁内の各部署も、例えば高齢者の所管で介護のご相談を受けていたけれども、よくよく聞いてみると、お孫さんがお家でお世話をしている、これはヤングケアラーの話とつながるんだとか、いろんなところでやっぱり関わってきます。それから、町内の連携も高めたいと思いますので、民生・児童委員、青少年育成委員会、民間団体含めた連携会議を設けまして、とにかく早く気づいてあげられるそうした体制づくりに努めてまいります。

次は、熱中症対策でございます。今日も37度ということで、とても暑い日が続いております。豊島区は以前より申し上げていますが、1人暮らし高齢者の割合が日本一高い自治体でございます。65歳以上の方が35.6%で、全国平均は19%ですので、かなり高いです。また75歳以上の方のうち1人暮らしの高齢者は38.1%、全国平均は20.9%ということで、相当高い状況でございます。そうした本区においては、高齢者の熱中症の対策というのが最重要課題となっております。6月30日に対策本部を設けまして、昨日も第2回の対策本部を実施しました。全ての部署で、どうしたことができるのかを確認をし合っております。特にこれはいろんなところでお伝えをしておりますけれども、「暑さを避ける」「こまめな水分補給」「体調管理」これはもういろんなところでポスターを貼ったりしながら周知をしているところです。メディアの皆さまもいろんなところで発信をいただいておりますが、具体的な発信を私達も心がけています。日中夜間を問わず、エアコンと扇風機と併用で使うといいですよとか、喉が渴かなくても1時間1回は一杯の水を飲んでいただくといいですよとか。あるいは1人暮らしの高齢者の方、私の父が1人で住んでおりますけれども、うちは私じゃなくて弟がこまめに電話したり、ちょっと顔を見に行ったり、すぐクーラーを止めちゃうので、「ちょこちょこ止めた方が電力を食うので、僕のために付けておいて」なんて話をしています。やっぱり子どもたちから直接親御さんにお声をかけるというのが、役所から言うよりよっぽどいいので、その辺もぜひお願いしたいというふうに思っております。

また熱中症対策としては、全ての区民ひろば26ヶ所をクールシェルター（涼みどころ）として開放を始めました。日頃からどなたでも区民ひろばは活用できますが、「散歩の途中でもお立ち寄りください」ということでオープンにしております。そのうち13ヶ所にまずマイボトル用の冷たいお水が飲める給水器を設置いたしました。これから速やかに残りの13ヶ所にも設置をしてまいります。これは熱中症対策でもありますし、豊島区10月からプラスチックの資源回収を始めますけれども、SDGs未来都市としてやっぱり環境対策も1

丁目一番地で頑張っておりますので、ペットボトルのゴミを減らすという観点でも、熱中症の対策とあわせて進めているところでございます。

また、熱中症対策としては、毎月、保健師や管理栄養士の専門職が区民ひろばを巡回して、区民ひろばに来てくださっている皆さまからのいろんなご相談、健康相談も含めて受けております。それから、民生・児童委員の皆さまに、75歳以上のお一人暮らしの高齢者の皆さまなどのお宅、約5,700世帯こちらを1軒1軒回っていただきまして、熱中症対策の啓発リーフレットとか、冷たくなったらマフラーとかお渡ししながら、「ご心配はないですか」「エアコンはしっかりつけてくださいね」などといった注意喚起を行っております。この間回っていただいたときに、お1人ぐったりされている方がいて救急搬送したというふうなことも聞いております。今まではコロナだったので、ポストに入れてピンポンするぐらいがここ数年でしたけれども、対面での確認やお話もできるようになりましたので、今皆さまにお暑い中、回っていただいております。

「猛暑のときには外に出ないで、家にいてください」という呼びかけもございますので、そうした中で一人暮らしの高齢者の方が、孤立して体調を崩されることがないように、また少し体力落ちたときには、適切な支援サービスに繋がられるように、福祉部門が中心となりまして、熱中症対策を全力でやっていきたいと思っております。

これから先は、いくつかイベントのご紹介をして、私からのご説明を終了したいと思います。

夏休みシリーズがいくつかございます。一つめは「としまで学ぶ夏の1日」です。これは昨年、区政施行90周年記念事業で始めて、2回目になります。7月30日に自由学園明日館で実施いたします。多くの区内企業の皆さま、団体のご協力を得まして、昨年は約800名の方にご参加をいただいております。デパートのお仕事体験とかですね、警察や消防の制服を着てこんなふうに行っているといった体験をしていただくなど、12のブースを設置しま

して、様々なお仕事の体験をしていただくとともに、各企業のSDGsの取り組みについてもご紹介をいただきます。去年に引き続き東京新聞さんにもご協力をいただきまして、子ども記者体験ブースというのも設置します。去年も大好評だったと聞いております。豊島区や企業の取組みを取材して、新聞にどうまとめていくかを伝えるという、子どもたちがワクワクするようなイベントもご協力いただきまして、やることにしております。ぜひ多くの方にご参加いただければと思います。

2点目はですね、東京ヴェルディさんと連携した「インクルーシブサッカーフェスタ」というのを、8月5日の土曜日、南長崎スポーツセンターで行います。ヴェルディさんは本当にいろんなところで活動をされていますけれども、性別とか年齢とか、障害の有無に関わらずに、誰もが分け隔てなく一緒にスポーツを楽しめる、そうした取り組み「スポーツ&SDGs普及活動」というのをやっておられます。私達も本当にそこは共感するところでございまして、今回連携しての事業を行うことになりました。ヴェルディさんとは、これまでとしまスポーツまつりやロードレースで連携を図っていますけれども、今回のこのインクルーシブサッカーフェスタを通じまして、障害がある子どもたちも体を動かし、みんなと一緒に楽しい経験ができるような機会を増やせるといいなと思っております。

当日参加した方の年齢や体の大きさ、障害の有無を見て、ヴェルディさんがうまい具合にチーム編成もしていただきますので、車いすの方でも、杖をお使いの方でも遠慮なく親子でお越しただいただければと思っております。今日発表して恐縮ですが、今日の5時までが締切りで、まだ少し余裕があるということですので、ぜひご参加をいただければと思います。

最後になりますが、8月3日を私どもはハレザの日ということで位置づけております。おかげさまでハレザ池袋は今年3周年を迎えます。8月3日から6日までをフェスティバル期間ということで、いろんな取り組みをいたします。初日は打ち水をやりますし、そのとき私

も浴衣を着ながら参りまして、アニソンシンガーとして人気のオーイシマサヨシさんも、来てくださることになっております。またハレザ池袋は八つの劇場がありますが、中池袋公園を九つ目の劇場と見立てまして、そこでアニソンのDJとしてDJ KOOさんが来たり、夜アニソンドダンスやアニソン盆踊りをしたりします。また、アニソンライブというのではありませんね、今回ボーカリストを区民からオーディションで募集しました。区民の中から選抜をされました4名の方に歌っていただくということで大いに盛り上げたいと思っています。期間中は池袋の各施設店舗にもご協力いただきまして、割引が受けられるなどの企画もございますので、ぜひ8月3日から6日ハレザ池袋でお楽しみをいただければと思っております。

30分で、私からの報告をさせいただきました。

この後は質疑をお受けしたいと思います。

よろしくお願いいたします。

【質疑応答】

共同通信

そごう・西武さんの質問になってしまって申し訳ないですが、先日西武ホールディングスの本社の方で、ヨドバシさんも含めたトップの面談が行われたと思います。そこでセブン&アイさん・ヨドバシさんからどのような計画を示されたのか、それは前回示されたときと違いはあるのか、区長としてはその提案提示されたものに対して、どう思われたのかをよろしくお願いいたします。

区長

以前より申し上げてます通り、基本的には民民の契約なので、具体的な内容について私が発表する立場ではないと思います。区としてお話しているのは、前回申し上げたところ

から一貫して二つです。一部報道で、区が1階や地下の低層階についてヨドバシさんが入ることに反発していてヨドバシさんが譲歩されたといった報道をされている記事をいくつか見ましたが、それは事実と異なります。前回は申し上げましたが、行政として1階にはこういう店が入るべきだ、この店は地下にあるべきだといったことを申し上げる立場にはありませんので、そうした観点での発言は、一切私はしておりません。申しているのは今回リニューアルをされるのであれば、そのリニューアルした結果が、池袋にとって、どうしたどういった盛り上げにつながり、街がもっと素敵なまちになり盛り上がっていくのか、池袋の東西、東だけじゃなくてですね、私達は東西を結ぶウォークアブルなまちづくりを目指しているのです、東口の大きなリニューアルということであれば、それが東口はもちろんです、それだけでなく、西口またあるいは豊島区全体としてどうしたどういったまちに、より良くなる魅力あるまちづくりに寄与していただけるのかそれを教えていただきたいということを言っているのが一つ。もう一つは、私は区長ですので後ろに区民の皆さんを背負っております。なので、特に影響が大きいであろう東口の商店街の皆さまや経済6団体など街の方々へのご説明をぜひお願いしたいと。私が背負っている皆さまへのご説明が一切ない中で、区長として、これがいいとか悪いとかってというのは申し上げられない。なので、直接のご説明をお願いしたいと、この2点を言い続けております。それは全く変わりません。就任してから何回かお会いをしておりますが、そのことを申し上げております。今日皆さまにはっきりお伝えしたいということとしては、役所として民間がおやりになるというところに、どこの場所に何が入らないと許さない的なことは一切言っていないということを改めてお伝えをしたいと思います。

そうした中で、内部でどういった打ち合わせがあったという詳細は言いがたいんですけども、共同通信さんですと、多分21日の会合後の報道で、改装計画で関係者の合意が得られる見通しとなって、決着に向かっていくと、交渉が進展していると思われるというような掲載がありましたけれども、そうした点においてイエスかというあまりそうは言えないかな、そこも事実と違うんじゃないかと思います。ニュースソースがどこかわかりませ

んけれども、少なくともその場の打ち合わせで合意が得られる見通しというふうに私は思っておりません。

日経BP

そごう・西武さんの、特に西武池袋店は、やっぱり池袋駅東口の再開発からも非常に重要な問題だと思っていて、豊島区も3月にウォークラブルなまちづくりについてコンセプトブックを出されてですね、そこが非常に重要な場所だからこそ官民でやっていくっていうところを強調されてきたと思います。今回のフロアプランについて、7月21日の会合にはそごう・西武からも代表の方、林社長が出られたかなと思うんですけども、フロアプランについては問題ないというような認識を説明されたのかということと、前回、区長がフロアプランについて善し悪しがわからないのでということを発表されていたと思うんですけども、納得のいく説明があったのかっていうところを教えてください。

区長

そこについては林社長に聞いてもらうのがいいとは思いますが、今回これも報道でありました通り、初めてヨドバシさんとそごう・西武さんがご出席されたということについては、先ほど合意が得られる見通しになったか、決着に向かっているかどうかについては、私は思わないと共同さんにお答えしましたが、出てこられたという点についてはですね、大いなる一歩ではないかと思いました。実際に百貨店をどうするかっていう中で、百貨店のトップが入っていない中での議論っていうよりも、もちろん西武百貨店の責任を持ってらっしゃる現場のトップが出てこられましたし、またこれから売却された後に担っていくのがヨドバシさんだとしたら、こういうふうにやってくんだっていうのは、ヨドバシさんがおっしゃるのが一番いいと思っています。ですので、出てこられたということは大いなる一歩であると感じている。林社長のコメントについては、私がちょっとお答えできないので、ご本人にお伺いいただければと思います。

日経BP

区民の方を背負ってるということで、地元の不安を解消されるような発言はあったのかどうかというのだけ確認させてください。

区長

そうですね。実態に沿って、お話はあったかとは思いますが。私はとにかくさっき申し上げた2点目ですね、まちの方に説明をしっかりとしてほしいということを申し上げて、その点についてはセブン&アイさんから、お約束をいただくことができましたので、そのときに林社長がご一緒になるかどうかは伺っておりませんが、しかるべき時期に、その中身について、あるいはそのリニューアルの考えについて、私を通してではなく、直接まちの方々にご説明をする場を設けていただけることになっています。

朝日新聞

そごう・西武の件で恐縮ですけれども、21日の会合で高際区長ご自身は発言をなさったんでしょうか。どんな発言をなされたのかということをお教えください。

区長

先ほど申し上げた2点を申し上げています。

朝日新聞

冒頭の、直接説明してほしいということをお伝えして、それに対してはイエスの回答をもらったということですね。

区長

そうです。

朝日新聞

それはセブンさんからでしょうか。

区長

セブンさんからですね。

朝日新聞

もう1点に関しては。

区長

具体的などこに何が入るというのではなくて、池袋のまちに、どんなプラスなことになっていくのかをご説明をいただきたいということを申し上げました。

ブルームバーグ通信社

そごう・西武の件で質問なんですけど、昨日ですね、そごう・西武の労働組合の委員長さんが会見されまして、投票率が9割以上の組合員が投票して、ストライキ権確立に賛成と、もしかしたら区長さんもニュースをご覧になっているかもしれないんですけど、そのことを受けて西武百貨店池袋本店、実現したらもしかしたら史上初のストライキに発展する可能性もあるかと思うんですけど、やはり今回の百貨店の売却を巡りこれまで、ここまでの騒動になっていることに対する区長さんの受け止め方ですとか、あと、この西武池袋本店が、区の中でどういう役割をこれまで果たしてきたかっていうのを教えてください。

区長

昨日は私もニュースを見まして、また今日の朝刊では各紙に取り上げられていて、こういう状況なのかというのを改めて思ったところです。委員長の方のご発言や、今日の報道なんかも見ますと、非常に不安を抱えてらっしゃる印象が強いですし、自分たちがこうやっているのは、そごう・西武が再成長できる環境作りをしたいんだと。このスト権の確立って、ストをする・しないはまた本当に大きな判断とは思いますが、こうした投票をしてもらってスト権を確立したのは、やっぱり売却後の絵姿を明確にしたいんだと、それについて私達は何も聞いてないというようなお話ですとか、それから、読売さんの記事で見たのですが、「フォートレスさんとしては百貨店事業を大幅に見直す可能性があり、労組はセブン&アイやそごう・西武の経営陣に、売却に際して将来的な事業計画、従業員の雇用維持等について情報開示を求める。また雇用などで複雑な条件が今後加わってくると売却交渉自体に影響を及ぼす可能性もある」というようなことが書かれてまして、これも本当に大きな問題だなということを改めて思いました。雇用されている側としては、やはり雇用維持っていうのはもう最大なテーマであるのは当たり前のことですので、それがこれまでどのように組合側と話が進めてこられたのかはわかりませんが、当然大きな問題でございます。将来的な事業計画や雇用維持についての情報開示を求めるっていうのは、私よくわからないんですけども、情報開示を求めずとも当然組合側に提案をして団体交渉は続けていくものではないかと想像するので、昨日おっしゃったことは、今までどんなことを組合の皆さまにお示しをして、団体交渉をやったのかやらないのかもわかりませんが、とにかく大変な状況なんだなということを、区長といいますか、テレビをご覧になったり、新聞をご覧になっている多くの皆さまと同じような受け止めをしたところなんです。西武池袋本店については、高野前区長、あるいはまちの皆さまにとっても本当に大きな存在でして、池袋のまちを一緒に作ってきたというような思いがあります。池袋の顔っていう言い方をしている方も多くですし、その中で文化を大事にした、単にものを売るんじゃなくて、文化を大事にした発信もされてきて、とにかくその池袋のまちの人たちと一緒に、まちづくりに向き合ってくださいました。そうした大事な存在だと皆さんおっしゃ

っていますし、私も豊島区歴が短いですが、この3年3ヶ月のいろんな方とのお付き合いの中で、それは実感をしているところでございます。

TBS

一部の報道で、先ほど区長もおっしゃっていましたが、9月に売却されるという話も出ています。まちのかたに説明がまだというところで、この9月1日売却のスケジュールっていうのはどのように感じていますか。

区長

私も9月っていうのは誰から聞いたんですかって聞きたいぐらいなんですけど、民民でいろいろ進められているのかもしれないですが、9月っていうのは初めて聞きましたし、報道で初めて知りました。繰り返して恐縮ですが、私からはとにかくまちのかたに説明をしてくださいということでお話をし、そこはご理解をいただいたんですけども、そのときに当然のことですけど、自分たちの社員に話してないことは、まちに出すっていうのはあり得ないので、社員の皆さまや組合とのお話が進んでですね、段階としてはそれがあって外部ってことにはなると思います。いつまちの方にお話いただくタイミングが来るのかは、組合交渉との関係もあると思うので、こちらからいつまでにすぐやってくださいとは、申し上げる立場にはないと思いますので、いずれにしてもその組合との団交も含め、社内の話し合いの状況から、まちにお話できる、していただけるタイミングが来たら、ご連絡をいただいて日程等々の調整をしたいということで、お待ちしております。

TBS

その日程については現状決まっていなくて、もちろんその区長としては9月1日に売却するのであれば、それまでには説明をお願いしたいっていう認識ですか。

区長

そうですね、最終的にいつ契約というのは、私が日程を決められるものでもありませんが、区としては、極端な話、「まちの方にご説明をしてください、そうでないともうこれ以上のことはお伝えできない」ということを言っている、それがなくても、もしかしてある日突然「9月で決まりました」とって報道が出て驚くようなことがないことを願っています。やはりどういう形で、あそこの館にお入りになるかに関わらず、あそこはやっぱり池袋の大きなポジションで、場所もそうですし、位置づけもそうですし、本当に大きな存在で、その後やっぱりお入りいただいた方と、行政それから私達のまちの方々がやっぱり連携して、これから100年に向けて110年、120年とまちづくりと一緒にあってチームとして進めていくことになりますので、あそこの館だけが独立王国ではないので、そういう意味ではやっぱり今後のまちづくりにも仲間として進めていける状況を作っていただきたい。説明なくして、もし決まってしまうことがあると、その後まちの方たちがどういう連携をとる心情になれるのかというような気になるところではありますので、そんなことは申し上げているので、そこはちゃんとお約束いただいた段取りを踏んでお進めいただけると思っております。

建通新聞社

私は事業の質問をさせていただきます。介護事業者との連絡協議会の件で、区内187事業所の方が参加されていると思いますが、残りの事業所の扱いといいますか、今後どうしていかれる予定なのか、全ての事業所をお願いしていくのか、それと現状では従来型の救援センター方式で残り113事業所を把握していくのか、その辺りを教えてほしい。

区長

事業所の規模ですとか、スタッフの体制とか、いろんなところが違うと思うので、もしかすると「災害になったときには自分たちのところをどう守るかっていうことが最優先な

ので、役所に連絡するとかそこまでできるかしら」とご心配されて、参画されていないような事業所もあるのかもしれませんが。なので、今回187の事業所の皆さまと一緒に、具体的な体制作りをスタートいたしましたので、今後この取り組みを残りの事業所の皆さまにも状況を説明するとか、あるいは先ほどもちょっと申し上げたかもしれませんが、一緒に災害時の対応についての勉強会なり、研修なりを協議会の皆さまとすることで、一つになるかもしれませんが、まずは安否確認をお願いできないかというような働きかけを、地道にかつスピード感を持ってやっていきたいなと思っています。

ごめんなさい、救援センターの件のご質問をもう一回よろしいですか。

建通新聞社

その前にすみません。今のところで、協議会に入る、入らないに関わらず安否確認できるかどうかを勉強会でお願いしていくのか。

区長

利用者の方の安否確認っていうとやっぱり事業所のBCPの中で大きなことだと思います。なので、個別にやってもよろしいんですけども、今回この連絡協議会というのが、より介護サービスの利用者の方をいかに守っていくかっていうことで自主的に作っていただいたものがありますので、できましたらそちらにやはりご参加いただいて、そのチームと、豊島区役所が連携していくという形がありがたいなと思っています。

建通新聞社

ありがとうございます。まだ参加されていない事業所さんについては、現時点ではどういう形で安否確認されているかという、次のご質問でした。

区長

今はですね、ご自身で決められているか、ただおそらくですね、自分のところでは確認しても、役所に報告するようにはなっていないんじゃないかと。だから自分のところで利用されている高際さんというおばあちゃんは、ここにいるから大丈夫だとか、明日デイサービスに来る田中さんというおじいちゃんは連絡したら家にいたんで大丈夫だとか、利用者の皆さんの安否は確認されるんじゃないかと思うんですけど、それが役所と共有するっていうところまで、今まで求めてなかったとかそういう仕組みになってなかったんですが、今回はそこを行政の方に、「高際のおばあちゃん大丈夫です」「田中のおじいちゃん大丈夫です」というのを共有してもらおう、そこが大きな踏み出しかなと思っている。

建通新聞社

まずは協議会との連携から始めるのか。

区長

そうですね、まずは協議会さんと連携していろんな呼びかけをしていきたいと思っています。

テレビ朝日

そごうさんの話に戻ってしまっていて恐縮なのですが、6月・7月で1か月に1回ぐらいのペースでセブン側からの説明会が開かれていると思うが、次回の会合の日程について決まっているのか、1か月に1回ぐらいのペースで行っていく予定なのか、日程が決まっていれば教えてください。

区長

決まってないです。

テレビ朝日

時期的なものとかペースとかも含めて決まっていない？

区長

はい。

朝日新聞

そごうの件で、21日の会合で区の方からはどういう魅力に寄与してもらえるのかっていうことを教えてほしいということ传达了ということだったんですけども、それについては誰がどのような受け答えをされたのか、また区としてはどういう魅力に寄与するプランになるのが望ましいとお考えなのか教えていただけますでしょうか。

区長

誰がどう発言したかはちょっと差し控えたいですけども、私たちが言ってるのはやっぱり百貨店としてどうあるのが、これだけ良くなるっていうのは行政なのでわからないんですね。なのでやっぱり今担っている方中心に、ヨドバシさんが入ったときに、ヨドバシさんのいいところもたくさんあると聞いていますので、ヨドバシさんが入ることでの大きなプラスと、それから西武百貨店が今あるもの、例えば面積が半分になったとしても、これだけ良くなるんですよとか、両方が合わさってこんなにいろんな魅力が増して、利用者の方にとっても非常に良くて、たくさんの方が今まで以上にお越しいただいて、その方たちがまちに出てって、池袋の東口も西口もこんなに皆さんに喜んでいただけるようなまちになっていくんですよと。そういう姿がこれまでよりも魅力が増す姿かなというふうには思います。

朝日新聞

具体的にこんな顔になってほしいとかっていうのはあるんでしょうか。先ほど、池袋にとって大きい顔だという発言があったので。

区長

やはり今の西武百貨店も非常に魅力があると思いますけど、ここに入ることによって場所が狭くなっちゃうのですごく魅力が減っちゃうっていうと、ヨドバシさんの魅力があるとしてもやっぱり今の西武百貨店が大好きなお客様もたくさんいらっしゃるんで、そういう方が池袋に来なくなっちゃうと困っちゃうなど。やっぱり二つ合わせることで2倍も3倍もあそこの館の魅力が増すというのが、地元の自治体としては望んでいることですね。

NHK

冒頭に、会合の中で区長の気持ちとして話し合いが進展しているとは、あまり所感としては思えなかったというのがあったんですが、会合のどの辺りの部分を見られた中でどういうふうにお感じになったのかということと、地元に対して説明するということについて西武の方からお話があったということですが、具体的な時期だとか、そこについて何かお話があったのかお伺いします。

区長

進展という意味ではさっき申し上げた、そごう・西武さんとヨドバシさんがテーブルに一緒につかれたっていうのは進展かと思います。お話の中身は今までと私は変わってないかなっていうように感じます。報道にございますように、決着に向けて大きく進展したっていう記事を見ますと、ちょっと違うかなという印象です。それからまちの皆さまへのご説明の時期もさっき申し上げたように、お待ちしております。具体的にいつということはいいですけども、やはり筋としてセブンさんご自身の社員の方へのご説明が先だろうと思います。

読売新聞

すいません重ねて恐縮なんですけども、先ほど組合のスト権が確立されたというお話の中で、印象としてはテレビとかご覧になった視聴者の一般的な立場としての発言があったと思います。改めて区長としてですね、顔である百貨店がもしかしたらストに発展するかもしれない時代になったというところに対して、あるいはストに発展したらどういふ影響が考えられるのかとの懸念、あるいは労組側の方はやっぱり会社からの説明はないということをはっきり言っているわけですけど、そういう労使の、他社の話になりますが、労使の会話がうまくできていないということについてどういふふうに思われるかということ、豊島区長としてのお立場でお願いしたいと思います。

区長

私達は雇用の維持は大丈夫ですってという説明をうけました。そういう意味で昨日は非常に驚きました。本当に大変な状況なのかしらということを初めて知りましたので、非常に心配しています。もちろん地元としては、これからお中元の時期にもなる中で、そこに西武百貨店がストっていうことになる、大変なことになると思いましたけれど、それ以上にやっぱり、社員の方々の必死さっていうのを感じて、まずはそこを見守っていくことになるでしょうね。

東洋経済新報社

そごう・西武の件でご質問です。この前の会合でセブン&アイさんもしくはヨドバシさんから、ヨドバシさんが入ることの魅力プレゼンされたような印象を受けました。区長も事実、ヨドバシさんが入る魅力と何々を天秤にかけるとコメントしていきたいみたいなことはあったと思うんですけど、ヨドバシさんが入る魅力をどのように区長がお考えになっているかっていうこと、ヨドバシさんの事業の魅力ではなくて、ヨドバシさんが西武池袋に入ることを現時点でどのように考えてるかっていうところを教えてください。

区長

私の意見というよりは、ヨドバシさんが入ることの魅力のご説明を以前より伺っております。こういうこともやってるし、決して家電だけじゃないんですよ、男性の若いお客様が増えますよ。あといろんなことやっていますというのは、ご説明いただいています。私もヨドバシカメラさんは利用いたしますが、具体的に皆さん以上に、ヨドバシさんのことに詳しいわけではないので、私自身の考えと言うよりは、そういう説明を受けています。それがリニューアルの案として出されているので、そういう形になるのであれば双方が入るとしたら、双方の魅力がかけ合わさって良いものになることを期待すると、そういうことで先ほど申し上げました。

産経新聞

先ほどストライキの影響としまして、このお中元の時期に大変だという話を申されましたけど、具体的に実際そうなった場合に豊島区の経済に与える影響というのはどのようにイメージされていらっしゃるのでしょうか。

区長

百貨店がストというとならば10年、50年振りくらいですかね。大変な影響とは思いますが、想像を絶しております。夏休みやお中元の時期に入り、親子で池袋に来て、西武百貨店で色んなお買い物をしたり、レストランで食べたりいろいろ楽しんでくださる方がいっぱいいるだろうと思います。この時期に、いつになるか、何日になるかわかりませんが、大変なことだなと感じます。すいません素人の反応なんですけど、ちょっと想像ができないような思いですね。

新宿新聞

そごうの質問で恐縮ですが、ウォークブルなまちづくり関係の質問があります。まちづくりということでやはり、池袋駅関係だと東西デッキというのが非常に大きな課題として残されていると思います。そのルートの一つに、南デッキですかね、西武を経由するルートがあるということで、その計画の区の構想への理解というのは、前提というか、区から説明なりして理解を得られている状況なのかをまず一つ伺いたいです。

あとその質問だけだと恐縮なので、もう一点、ハレザ3周年おめでとうございます。先ほど中池袋公園が9つ目の劇場ということで説明ありましたが、ハレスタが4月末に閉鎖されましたが、その位置づけはどのようになっていますか。また今後の活用はどのように、ハレスタの施設の事業者に、こうしてほしいみたいな希望を伝えているのか、この2点を伺います。

区長

2点目は確認して、追ってご説明したいと思います。

1つ目のヨドバシさんのことについては、ウォークブルな構想というのは、詳細はこれからですけども、大きな100年に向けての構想ということで、もう発表もしております。また、こういうことで私達のまちづくりは考えていて、そういう中で今の西武百貨店というのは大きなポイントになりますというお話は申し上げているので、ご理解いただいているのではないかと思います。おっしゃる通り、全体としていかにお客様がたくさん来て、これまで以上に池袋に賑わいをもたらしてくれるかという中身ももちろん期待しますが、まさにお話の通り、これからのまちづくりと一緒にやっていかなければならないところがありますし、特にデッキっていうのは前高野区長からの強い強い思いで、ああいう構想に結びついているので、そこをいかに一緒に連携していけるかっていうところも、私達としては大きなポイントだと、お伝えはしているのでご理解いただいていると私は思っています。

広報課長

2点目の質問につきましては、後ほど所管課長から報告させていただきます。

テレビ東京

最後でピントのずれた質問をしてしまうかもしれないですが、申し訳ありません。区長として、区として、今までヨドバシカメラの出店に対して反対されたことはないというふうに、先ほどおっしゃっていたと思いますが、プランが途中で変わってきた理由ってというのは、どのように認識されてますでしょうか？1階とか地下への出店に関して、これはなぜ変化されたと思いますか。

区長

「変化」とは？

テレビ東京

例えば、出店に関して最初の計画ですと、1階とか地下に直結した出店という計画もあったと思いますが、それがこの間、「1階や地下を断念する」という報道がありました。それは変化になると思いますが、それが起きた理由は何でしょうか。区としては正式に出店に関しては反対されていないというふうに、先ほどおっしゃっていたと思いますが、なぜ出さない、断念したというふうになったのか、その点について、区長はどのように判断されていますか。

区長

良いご質問をいただきました。私が言うのを忘れていました。報道で「断念された」というのが出ており、また「区がこういうふうに申し上げたことで、非常に残念だけでも1階と地下は断念した」というものを見ました。お打ち合わせで会う前にそれを見たの

で、実は断念された案が出てくるのかなと思いましたが、そうではなかったので、断念されたというのはわかりません。報道を信じて、私は何か新しい案が出てくるのかしらと思っていました。しかしそうではなかったので、一番最初から変わっているのかどうかですが、私としては例えば1階も地下1階はもう端から端まで全部そごう・西武ということ誰かから、どの新聞社かわかりませんが、どなたから聞いて書かれたのかどうかもわかりません。なので「変化とは？」と伺ったのは、私は断念された変化の案は見えていないので、変わったことに対し云々というのはないです。

テレビ東京

変わったものは一切見てないってことですね。

区長

何が変わったって言うのですかね、「断念」と言うので何か違うものかなと考えましたがわからなかったです。変わった点はどこかにあるかもしれませんが、大きな点ではわかりません。少なくとも「断念」という意味は、一切やめるってことじゃないですか。

テレビ東京

地下とか1階に出さない、そこを諦めるって報道が多かったですよね。それに関してはそういう説明もないし、そういうプランも提案されていないということですか。

区長

だからそうですね、ちょっと進展って意味ではどうかなって申し上げたのは、登場人物は増えてましたが、同じ話だったので、皆さんがそれぞれ同じこととお話したってことです。私も「断念」という記事を見て、そんなふうに思いまして臨みましたが、そういうのではなかったです。

※テキスト版については読みやすさを考慮し、重複した言葉づかいや言い直しなどを整理しています。

(テキスト版文責 政策経営部広報課)